

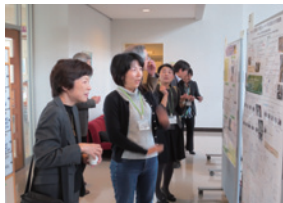
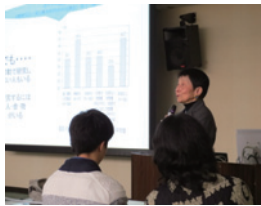
男女共同参画

推進室便り

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者養成システム改革加速事業
「レボリューション！女性研究者養成神戸スタイル」

総括シンポジウム

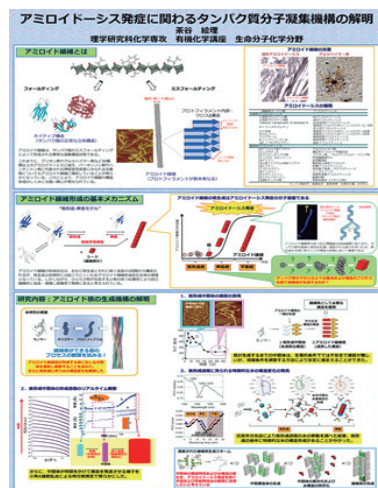
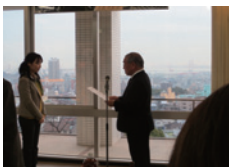
平成27年3月16日、神戸大学瀧川記念学術交流会館にて、「総括シンポジウム」が開催されました。本シンポジウムは女性研究者の採用及び在籍比率が低い理学系・工学系・農学系の優れた女性研究者の養成を加速することを目的とし、平成22年度からスタートしたプログラムの総括となりました。まず、理系女性研究者の草分け的存在である坂東昌子氏（NPO法人知的人材ネットワークあいんしゅたいん理事長）の講演、続いて21人の新規養成



女性教員がポスター発表を行いました。その後、JSTの山村プロジェクトオフィサーおよび文部科学省の和田人材政策推進室長から着実に成果が上がっているとの講評をいただきました。

シンポジウム後の懇親会では、学長、理事、研究科長、新規養成女性教員とそのメンターの先生方のほか本事業の関係者が一同に集まり、本プログラムの5年間の道のりを語り合いながら、若手女性教員との交流を楽しみました。

さらに、参加者投票による優秀ポスター賞が発表され、理学研究科の茶谷絵里准教授が受賞されました。



新規養成女性教員研究紹介

氏名	所属	職名	研究タイトル
黒田 慶子	農学研究科	教授	「病原体-宿主相互作用の解明」 「地域社会における森林生態系の保全手法」
佐倉 みどり	理学研究科	講師	昆虫の偏角視の神経機構
保井 みなみ	理学研究科	助教	フラッシュX線を用いた衝突クレーター形成過程の その場観察
茶谷 絵理	理学研究科	准教授	アミロイドシス発症に関わるタンパク質分子凝集 機構の解明
藍原 祥子	農学研究科	助教	消化管における機能食品因子の認識と その情報伝達
松尾 栄子	農学研究科	助教	オルピウイルスの複製機構に関する研究
山田 香織	自然科学系先端融合研究環	助教	擬態語による動くロゴマークのデザイン
榎並 直子	自然科学系先端融合研究環	助教	「物体特定のための色属性」 「演奏評価タスクのための顕著性」
中馬 いづみ	自然科学系先端融合研究環	助教	イネ科植物いもち病菌の宿主への適応機構の 解明
日出 間 り	自然科学系先端融合研究環	助教	複雑流体の流動挙動を各階層における伸張流動 特性から解明する
鈴木 千賀	自然科学系先端融合研究環	助教	閉鎖性水域の環境保全と藻類バイオマスの活用 に関する研究
本郷 千鶴	自然科学系先端融合研究環	助教	セルロースナノファイバー複合材料の創製
吉田 康子	農学研究科	助教	サクラソウの異型花柱性に関する遺伝子領域の 推定
松本 文子	自然科学系先端融合研究環	助教	人の意識・感情に着目した地域計画についての 研究
佐藤 春実	人間発達環境学研究科	准教授	振動分光法および量子化学計算を用いた生分解性 ポリエステル分子間水素結合に関する研究
青木 画奈	自然科学系先端融合研究環	助教	光学素子のための微細構造形成技術開発
伊藤 麻衣	自然科学系先端融合研究環	助教	間柱型銅板耐震壁を利用した耐震補強設計法の 構築
清水 志真	自然科学系先端融合研究環	助教	陽子衝突型加速器LHCを用いたATLAS実験にお ける素粒子物理標準模型の検証
山口 愛果	自然科学系先端融合研究環	助教	底生性渦鞭毛藻類の系統分類学的研究
尾下 優子	海事科学研究科	助教	持続的かつ強靱な産業構造・システムの構築
大野 朋子	人間発達環境学研究科	准教授	祭祀植物の利用と地域景観形成に関する研究

(着任順)

男女共同参画貢献賞（大石 哲教授）

男女共同参画貢献賞は、男女共同参画の推進に貢献した功績が極めて顕著であると認められる本学の職員又は複数の職員で構成されたグループに対し、その功績を称えとともに、今後の一層の活躍を願って男女共同参画推進室長から表彰を行うものです。

平成26年度は自然科学系先端融合研究環 都市安全研究センターの大石哲教授が受賞されました。男性で初の受賞となります。





ユネスコワークショップ

GENDER AND DISASTER REDUCTION 開催 【平成 26 年 12 月 17 日 (水)】

【講演】日本の災害時のジェンダー問題・女性のリーダーシップなど

朴木 佳緒留 氏 (神戸大学学長補佐) 桜井 愛子 氏 (東北大学准教授) 池田 恵子 氏 (静岡大学教授)

【ワークショップ】災害の多い国 (トルコ、インド、インドネシア、フィリピン、マレーシア) の専門家

- Sibel Kalaycioglu 氏 (Professor, Department of Sociology, Middle East Technical University, Turkey)
- Chandrani Bandyopadhyay 氏 (Assistant Professor, National Institute of Disaster Management, India)
- Diah Tyahaya Iman 氏 (Associate Professor, Faculty of Humanities, Andalas University, Indonesia)
- Shelby Acosta Ruiz 氏 (Civil Defense Officer III, Department of National Defense, Philippines)
- Irwanto 氏 (Associate Professor, Faculty of Medicine, Airlangga University, Indonesia)
- Norzalina Masom 氏 (Head, Department for Disaster Risk Reduction, MERCY Malaysia, Malaysia)



26 年度 研究支援員制度利用者報告

利用者 23 名 (うち男性 1 名)

福田 伊津子
(農学研究科助教)

二人目の出産後、園への送迎のため在室時間が限られている中で、円滑かつ迅速に研究を推進できたと思います。特に、復職後は、科研費の採択初年度となり、学生さんに支援員として補助いただいたことは非常に有意義でした。

王 柳青
(農学研究科 M2)

自分の研究計画の動物実験普及、普段は練習する機会が少なく、不安でした。今回研究支援体験を通して、動物実験に対する取り組み方を学びました。今回の仕事は、今後の自分の研究を進めるにあたって貴重な経験だと思えます。

細名 水生
(保健学研究科講師)

国際学会発表 8 件、国内学会発表 4 件、学術論文掲載ができました。1 年間を通じて研究への取り組むモチベーションを高く維持できたのは本制度のおかげだと感じております。

M.Y(事務補佐員)

研究に加えて家事・育児で、お忙しい毎日をお送りの先生を見てみると、支援員としての役割の重要性を感じることが出来、より多くの研究者の方々が利用し、普及すればと思います。

中 真人
(人文学研究科・准教授)

保育園の送迎や子どもの世話に一日の多くの時間が割かれてしまいますが、支援員の方がコンスタントに文献リスト作成や収集を進めてくださったために、長期休暇など時間が空いた時に、スムーズに研究に入ることができました。

吉岡 千浩
(人文学研究科 D1)
大学教員の具体的な実務の一部を垣間見ることができ、良い機会となりました。研究補助は私の刺激となり、視野を広げてくれる経験となりました。学生にとっても、「子育て中の男女研究者支援」は、有意義な経験を提供するいい制度だと思います。

H26 年度 育成研究員報告

育成研究員とは、メンターや研究支援員などの支援を受けながら、研究分野が適合した研究チームで OJT を経て、正規雇用を目指す意欲と能力を有する女性研究者である。



上野 琴巳 (農学研究科)

「ストリゴラクソンの多様性に関する研究」

アカデミックポストの獲得が困難になっている今日、1 年間ではあったが自由に研究する機会を得ることができ、貴重な時間を過ごすことができました。国際学会では次のテーマの参考となるような情報を得られ、またこれまでの仕事をある程度まとめ、研究者としての能力を高める時間になった。教員職も得ることができたので、この期間で身につけた技術や知識を

飯田 聡子 (理学研究科)

「水生植物ヒルムシロ科植物の表現型可塑性の解析」

私は出産・育児によるブランクから復帰する際に、この制度に応募し、運よく採用されました。正式に研究員として復帰できたお陰で、子供を保育所に預け、研究のための時間を得ることができました。研究領域では技術の革新が進み、研究方法も休職中に大きく変化していましたが、時間を与えられたことで新しい課題に取り組むことができました。また育成研究員終了後は、私が研究代表者の科学研究費の助成を受けることができました。

